

家族農業の10年

表紙のことば

写真と文：鈴木正美

〈大野翔平さん・政則さん〉

おむすびのような三角の山々。その麓にゆったりと水をたたえるため池が広がる。

『まんが日本昔ばなし』のような光景を見ながら、大野翔平さんを訪ねた。アスパラガスは美しい。先端は濃いめの緑で裾に向かって柔らかいグラデーション。穂先はシュッと締まっていて、品の良いたたずまい。品種は、香川県が開発した「さぬきのめざめ」。「品質が良く、穂先の締まりがいいので従来と比べ長く伸ばして出荷できます。そして何より柔らかい」大野翔平さんはそう話す。思わず「きれいですね!」とつぶや



くと、隣にいた父・政則さんの頬が緩んだ。

ハウスは14棟。経営はあえて独立させている。これには父の思いが込められていた。「しっかり経営してこそその農業。独立せんとね!」

政則さんは企業に勤めてから、代々農家の大野家で専業の道に入った。一方、飲食業界にいた元シェフの翔平さん。食材への思いが膨らみ、

調理する側から生産する側へと転向する。父の思いに対して翔平さんはしっかりと結果を出してきた。ハウスの中に入る。畝の高さが半端なく高い。なかなかの迫力だ。

「もともと水はけの良い土地ではないんです。JAと二人三脚でこまめやって来ました。生産の方法や販売の面でもバックアップには感謝しています」

JAグループ 共通コンテンツ

食・農・地域のくらしを支えるJAの存在意義や取り組みを紹介するJAグループ共通コンテンツ（JA新聞連『JA広報通信』にて提供中）。今年度は、「未来を拓く協同組合 JAと農業」をテーマに毎月分かりやすく解説します。JA広報誌への掲載等により、組合員や地域住民への情報提供資材として、ぜひご活用ください。

未来を拓く協同組合

JAと農業

監修=JCA
(日本協同組合連携機構)

JAグループの基本的な取り組み

2019年3月に開催した第28回JA全国大会では、3つの危機を突破し、「組合員とともに農業・地域の未来を拓く」ことを取り決めました。3つの危機とは、担い手不足や高齢化などの「農業・農村の危機」、JA組織基盤の弱体化と事業取扱いの減少という「組織・事業・経営の危機」、わがJA、意識の低下などによる「協同組合の危機」です。

これに対する、JAの基本的な姿勢は「協同組合の原点に立ち返り、組合員の『声』に基づく運営を徹底する」ことにあります。JA役職員は日常的な対話を通じて組合員との相互理解を深め、自己改革の取り組み実績等を伝えるとともに、組合員の評価や新たなニーズを把握します。そして、地域の特性を生かして、創意工夫を凝らした個性ある取り組みを展開します。

語句解説

【JA全国大会】(じえいゐぜんこくたいかい)

3年に1度、全国のJAの代表者が集まり、JAグループの目指す方向などを決定する大会。第28回大会では、自己改革の基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」へのさらなる挑戦と、それを支える持続可能な経営基盤の確立・強化を重点課題として、「創造的自己改革の実践」を提起しました。

第28回JA全国大会 創造的自己改革の実践

組合員とともに
農業・地域の未来を拓く

持続可能な
農業の実現

豊かでくらしやすい
地域社会の実現

協同組合としての
役割発揮

食と農を基軸として地域に根ざした協同組合
としての総合力発揮

農業・農村の危機

組織・事業・
経営の危機

協同組合の危機

JAグループ自己改革

農業者の所得増大
農業生産の拡大

地域の活性化

組合員のアクティブ・
メンバーシップの確立

持続可能な経営基盤の確立・強化

「食」「農」「協同組合」にかかる国民理解の醸成



耕そう、大地と地域の未来。